

平成26年度 第1回 日本海スルメイカ長期漁況予報

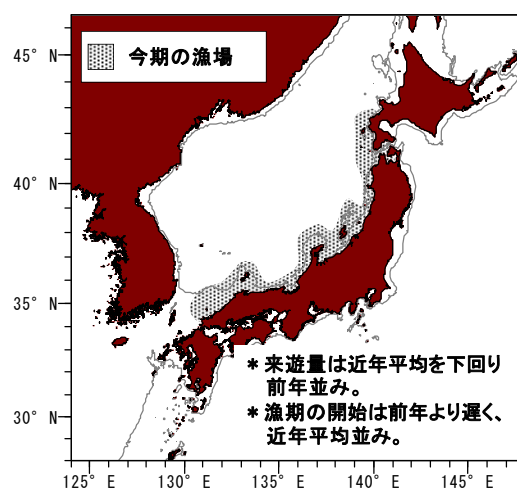
— 別表の水産関係機関が検討し独立行政法人水産総合研究センター
日本海区水産研究所がとりまとめた結果 —

今後の見通し(平成26年5月～7月)のポイント

対象魚種：スルメイカ
対象海域：日本海
対象漁業：主にいか釣り漁業
対象魚群：主に秋季発生系群

- (1) 来遊量：近年平均を下回り、前年並み。
- (2) 漁期・漁場：漁期の開始は前年より遅く、近年平均並み。
- (3) 魚体の大きさ：前年および近年平均並み。

* 近年は最近5年間(平成21年～平成25年)



問い合わせ先

水産庁 増殖推進部 漁場資源課

担当：沿岸資源班 梶脇、影沼澤

電話：03-3502-8111(内線6800)、直通電話：03-6744-2377、ファックス：03-3592-0759

当資料のホームページ掲載先URL

<http://www.jfa.maff.go.jp/j/press/>

(予報の詳細についてのお問い合わせ先)

独立行政法人水産総合研究センター 日本海区水産研究所 業務推進部

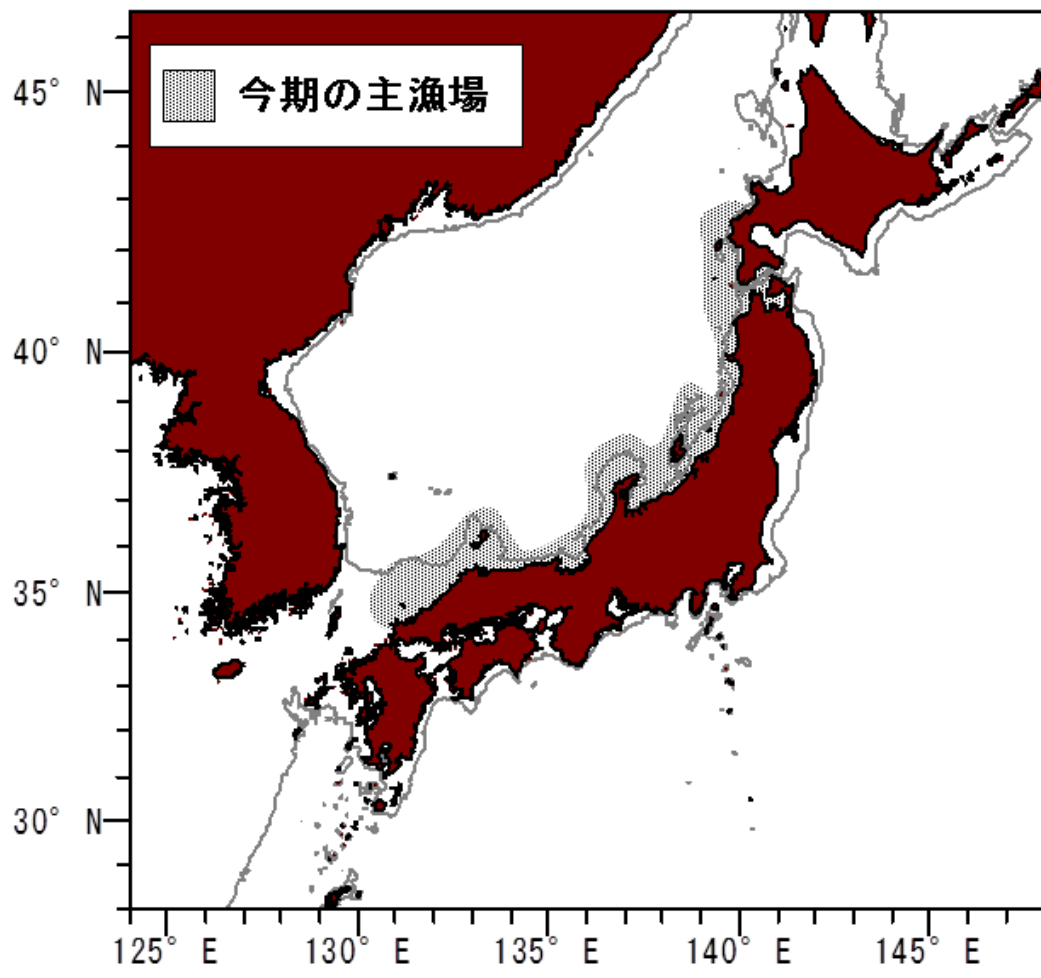
担当：関根、檜山

電話：025-228-0451、ファックス：025-224-0950

当資料のホームページ掲載先URL

<http://abchan.job.affrc.go.jp/>

<http://jsnfri.fra.affrc.go.jp/>



平成26年度 第1回 日本海スルメイカ長期漁況予報

今後の見通し（2014年5月～7月）

対象魚種：スルメイカ

対象海域：日本海

対象漁業：主にいか釣り漁業

対象魚群：主に秋季発生系群

- (1) 来遊量：近年平均を下回り、前年並み。
- (2) 漁期・漁場：漁期の開始は前年より遅く、近年平均並み。
- (3) 魚体の大きさ：前年および近年平均並み。

* 近年は最近5年間(2009年～2013年)

I 漁況予報

日本海におけるスルメイカの資源調査結果（2013年10月～11月の日本海スルメイカ稚仔分布調査、および2014年4月のスルメイカ新規加入量調査）と海洋環境予測、および今年の漁況の経過を主要な情報として、今期（2014年5月～7月）の日本海におけるスルメイカの漁況を下記のとおり予測した。

【予測】

今期（2014年5月～7月）の日本海沿岸域へのスルメイカ来遊量は近年平均を下回り、前年並みと予測される。漁期の開始は前年より遅く、近年平均並みと予想される。魚体の大きさは前年および近年平均並み。

【情報】

- (1) 2014年4月に実施したスルメイカ新規加入量の調査結果では、今期に漁獲加入すると予想される外套背長5cm以上のスルメイカの分布量は近年平均を下回ったものの、前年並みであった。
- (2) 2013年10月～11月に実施したスルメイカ幼生の分布調査では、幼生の分布密度が前年および近年平均を下回った。
- (3) 2014年4月中旬の日本海における表面水温はほぼ平年並みであり、4月～6月の対馬暖流域の表面水温も「平年並み」、水深50mの水温も「平年並み」で推移すると予測されている。
- (4) 2014年3月の漁獲量は、西部日本海では近年平均を上回ったものの、本州北部では近年平均を下回った。

II 説明

1. 調査結果

1) 4月におけるスルメイカの分布状況

いか釣り漁業では外套背長15cm以上のスルメイカが主な漁獲対象となる。したがって、いか釣り漁業で漁獲される前のスルメイカ（主に外套背長2cm～10cm）の分布状況を事前に把握することで、その後の漁況を予測することが可能になる。なお、本調査で採集されたスルメイカのうち、外套背長5cm以上のサイズが今期（5月～7月）の漁獲対象になると想定される。

2014年の日本海での主漁期前（4月）に実施した新規加入量調査^{*1}結果（図1）では、若狭湾や隠岐諸島沖で外套背長5cm未満のスルメイカが採集され、佐渡から能登半島沖では外套背長5cm以上のスルメイカが採集された。1調査点あたりの平均採集尾数は15.5尾であり、近年平均（49.3尾）および前年（49.6尾）を下回った。なお、今期（5月～7月）の漁獲対象になる外套背長5cm以上の平均採集尾数（8.8尾）は近年平均（12.5尾）を下回ったものの、前年（8.0尾）と同様であった（図2）。

*1) 新規加入量調査：口径10m～12mの表層トロール網を用いた採集調査。各調査点で3ノットの速度で30分間曳網して実施。

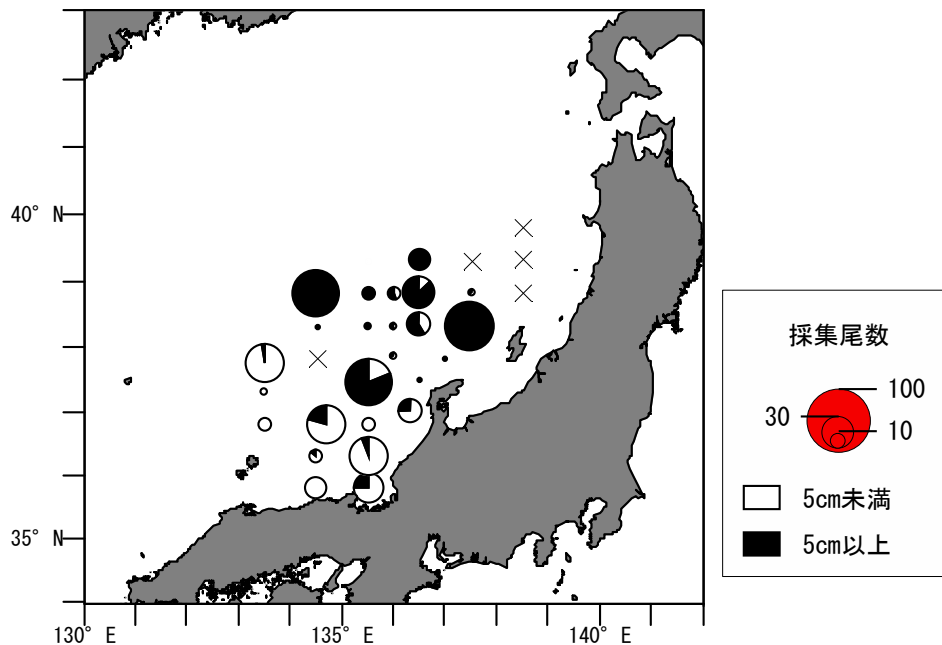


図1 2014年4月の表層トロールによるスルメイカの採集調査結果
（○の面積は採集尾数、×は採集されなかった調査点）。

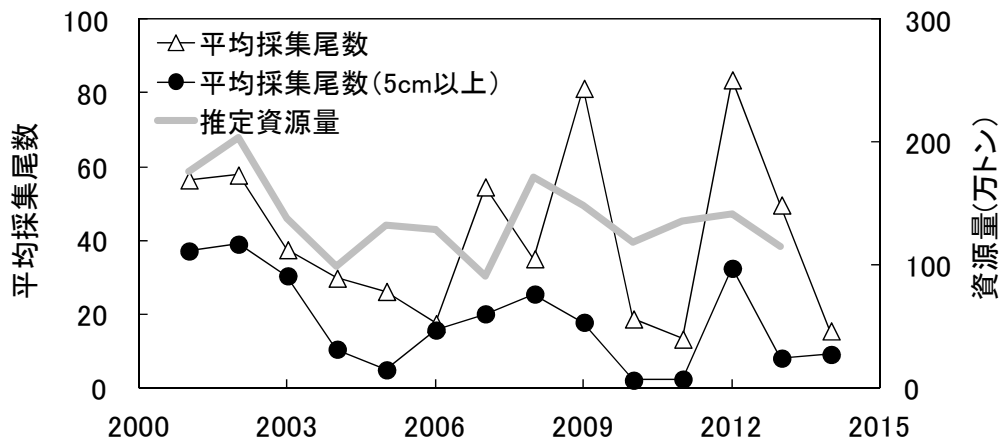


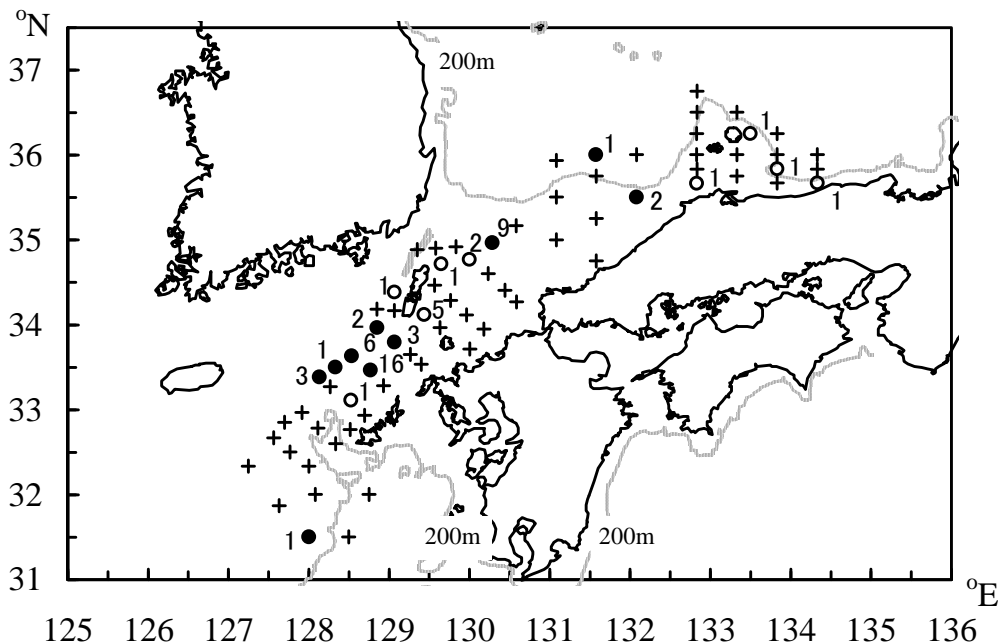
図2 表層トロール調査による平均採集尾数と推定資源量の経年変化
推定資源量は、前年度におけるスルメイカ秋季発生系群の資源評価調査結果の値。

2) 前年秋のスルメイカ幼生の分布量

5月下旬～10月の日本海では、前年の秋～冬に生まれたスルメイカ秋季発生系群が漁獲される。したがって、前年秋～冬のスルメイカ幼生の分布量は、スルメイカ秋季発生系群の親魚量（獲り残し量）の指標値になる。

2013年10月～11月に実施したスルメイカ幼生の分布調査^{*2)}では、隠岐諸島から対馬海峡付近の広い海域で幼生が採集され（図3）、1調査点あたりの平均採集尾数は0.86尾であった。この値は2012年の調査結果（1.10尾）および近年（2008年～2012年）平均（1.02尾）を下回った（図4）。

*2) 幼生の分布調査：口径45cmのプランクトンネット（網目0.33mm）を用いた採集調査。各調査点で水深150mまでの鉛直曳によって主に外套背長1～3mmのスルメイカ幼生を採集する。



孵化直後のスルメイカ幼生(外套背長約1mm)

図3 2013年10月～11月におけるスルメイカ幼生の分布調査結果

○幼生が採集された調査点、●孵化直後の幼生が採集された調査点、+幼生が採集されなかった調査点、
図中の数字は各調査点における採集尾数。

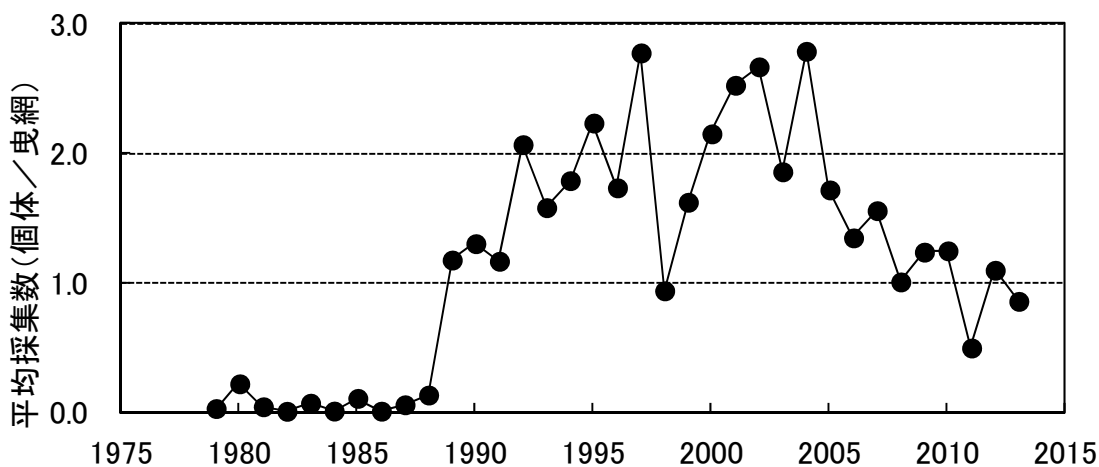


図4 スルメイカ幼生の1調査点あたりの平均採集尾数の経年変化

2. 日本海における海洋環境

平成26年度第1回日本海海況予報^{*3)}によると、対馬暖流域における4月～6月の表面水温および水深50mの水温は平年並みで経過すると予測されている。したがって、スルメイカ漁期の開始時期は前年よりも遅く、近年平均並みと予測される。

*3) <http://www.fra.affrc.go.jp/pressrelease/pr26/20140407/20140407.pdf>

3. 日本海におけるスルメイカ漁況の経過

日本海では、1月～3月上旬は前年の冬に生まれたスルメイカ（冬季発生系群）が主に漁獲され、3月中旬～4月は前年の春～夏に生まれたスルメイカ、5月以降は前年の秋に生まれたスルメイカ（秋季発生系群）が漁獲の中心となる。

前年の予報対象期間（2013年5月～7月）は、漁期の開始が早く、本州北部では5月の漁獲量が近年平均を上回った。しかし、魚群の北上速度が速く、6月および7月の漁獲量は近年平均を下回った。道南・津軽では6月および7月の漁獲量がほぼ近年平均並みであったものの、道北・道央における7月の漁獲量は近年平均を大きく下回った。その後（2013年8月～12月）における道南・津軽および道北・道央の漁獲量は、ほぼ近年平均並みで推移した。

2014年の経過として、本州北部では前年12月～1月の漁獲量が近年平均を上回ったものの、2月～3月の漁獲量は近年平均を下回った。西部日本海では2月の漁獲量が近年平均を下回ったものの、3月は近年平均を上回った。

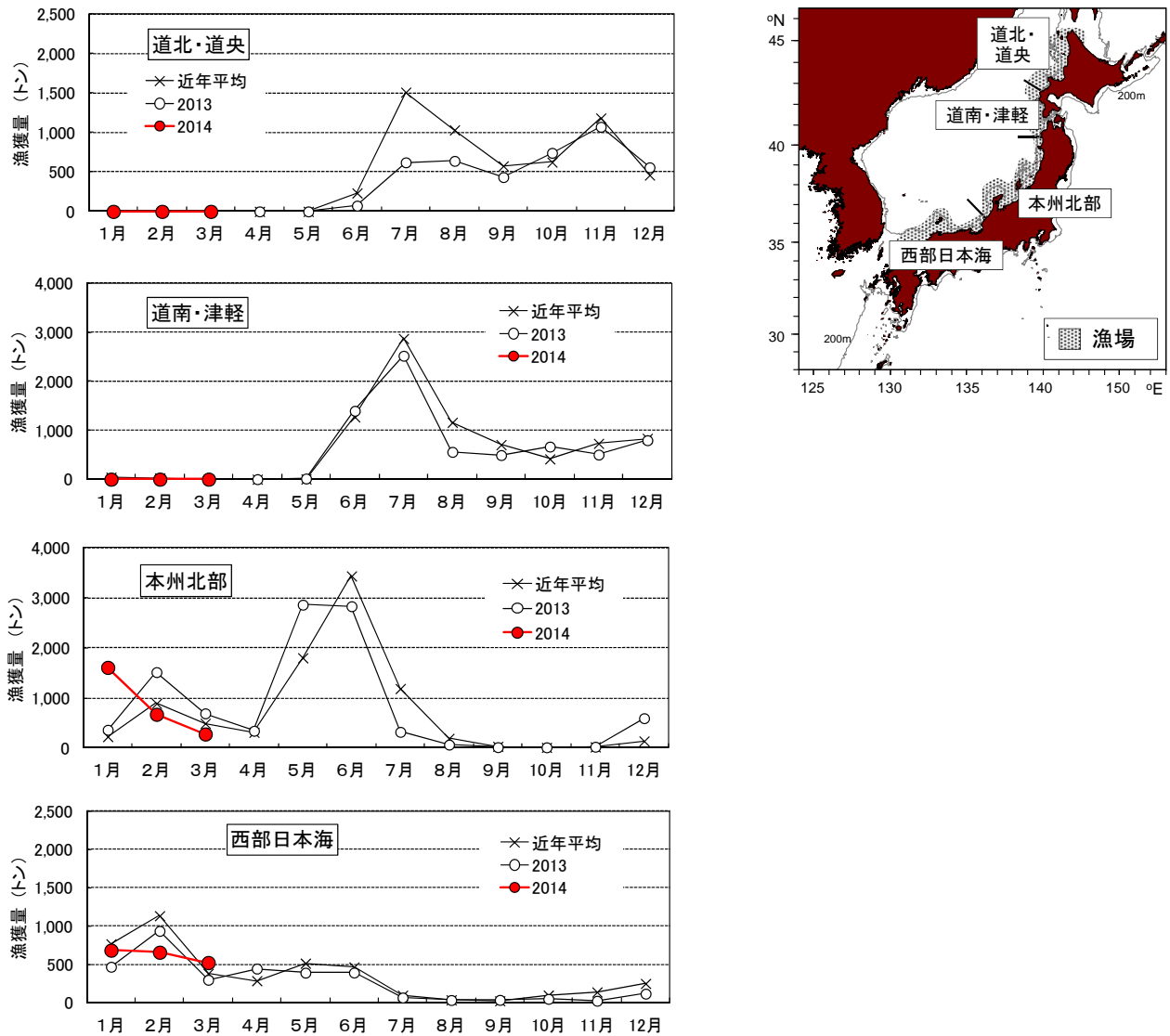


図5 日本海各地における漁獲量の経過（近年平均、2013年および2014年）

参 画 機 関

| | |
|--|--------------------------------|
| 地方独立行政法人 北海道立総合研究機構 水産研究本部 中央水産試験場 函館水産試験場 | 京都府農林水産技術センター 海洋センター |
| 地方独立行政法人 青森県産業技術センター 水産総合研究所 | 兵庫県立農林水産技術総合センター 但馬水産技術センター |
| 秋田県水産振興センター | 鳥取県水産試験場 |
| 山形県水産試験場 | 島根県水産技術センター |
| 新潟県水産海洋研究所 | 山口県水産研究センター |
| 富山県農林水産総合技術センター 水産研究所 | 長崎県総合水産試験場 |
| 石川県水産総合センター | 一般社団法人 漁業情報サービスセンター |
| 福井県水産試験場 | 水産庁 増殖推進部 漁場資源課 |
| | (取りまとめ機関) |
| | 独立行政法人 水産総合研究センター 日本海区水産研究所 |